

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

未来予測が困難な後期近代社会を生き抜くために、グローバルかつローカルな視点を持ち、新たな価値を創造する力と社会を生き抜く人間力を養い、社会をリードする人材を輩出する学校をめざす。

1. 育てたい生徒の資質は次の4つ

- | | |
|---|-----------------|
| ①流動化する社会の中でも「世の為、人の為」という原点になる志をもち、己を鍛える生徒 | (志を持ち、己を鍛える) |
| ②幅広い教養(リベラル・アーツ)を身につけ、知性を磨き、新たな価値を創造する生徒 | (知性を磨き、価値を創造する) |
| ③己を知り、社会を知り、世界を知り、人生を描くことが出来る生徒 | (己を知り、人生を描く) |
| ④人と繋がり、地域・社会と繋がり、世界と繋がる、心身ともに健全で規律ある生徒 | (人・社会・世界と繋がる) |

2. めざすべき教職員集団の4つの観点

- | | |
|---|-----------|
| ①常に「生徒のために」の原点を忘れず、新たな教育課題に果敢に挑戦する教職員集団 | (果敢に挑戦する) |
| ②互いに成長しあい、学びあい、切磋琢磨する教職員集団 | (切磋琢磨する) |
| ③同僚性に富み、互いに支えあい、強みを活かし、弱みを克服する教職員集団 | (同僚性に富む) |
| ④互いの役割分担を認め、相互理解するチーム力のある教職員集団 | (チーム力がある) |

2 中期的目標

1. 思考力・判断力・表現力を養い主体的に学ぶ力を育成する。

(1) 進路実現に結びつく質の高い授業を生徒に提供する。

ア 授業アンケートのデータおよび自由記述にみられる生徒の生の声に真摯に向き合い、授業見学、公開授業、研究授業を、教科を中心に組織的に取り組む
※学校教育自己診断「学力のつく授業が多い」(H29年度肯定感66.3%)「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」(同50.9%)を毎年3ポイントずつ引き上げ、H32年度には、各項目を10ポイント近く向上させる。

(2) 社会とのトランジションを見据え、知識・技能の習得だけではなく、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう社会性を意識し、アクティブ・ラーニング型授業(以下、ALまたはAL型授業とする)を促進する。

ア 知識構成型ジグソー法をはじめ、現在開発されているAL型授業を積極的に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改革に取り組む。
※学校教育自己診断の「思考力・判断力・表現力を養う工夫をしている先生が多い」(H29年度肯定感59.1%)、AL型授業の実践アンケート「AL型授業を実践した」(H29年度42.9%)から毎年3ポイントずつ引き上げる。

(3) 自ら課題を見つけ探究心をもって主体的に学ぶ力を育てる。

ア クエスト・エデュケーション(以下QEとする)を中心とした探究的な学びを推進し、学校内外の授業以外の学びの場を提供することで、学ぶことの興味関心をそだて、自己のキャリア形成と関連付けた主体的で探究的な学びを促進する。
※学校教育自己診断「授業以外にも興味関心を持たせる学びの場がある」(H29年度肯定感49.9%)をH30年度の肯定感から毎年3ポイントずつ引き上げる。QEに関する肯定感の現状(H29年度77.8%)を維持する

イ 朝の小テストを改善し、読解力の育成の一助とする。

※「朝の小テスト」は学力の向上や興味関心の向上に役立っている(H29年度肯定感57.5%)から毎年3ポイントずつ引き上げる。

ウ 様々な学びの場を提供し、自学自習の力を養う。具体的には、①講習・補習の充実②AL型学習ができるラーニングcommons(以下LCとする)の利用③教育産業と連携したVOD型学習の推進及び進学講習の充実を図る。

※学校教育自己診断の「補習や補講が生徒のニーズに沿って行われている」(H29年度肯定感69.2%)「自習室・LCの開放は、学習時間の確保に役立っている」(H29年度利用者肯定感76.3%)を毎年3ポイントずつ引き上げる。さらに、74期生より導入するVOD型学習について「VOD学習は、学力の向上に役立っている」を新設し、平成30年度肯定感50%以上、毎年3ポイント以上引き上げ、平成32年度には60%以上の肯定感に引き上げる。

2. 高い志を持ち進路実現をするためのキャリア教育を充実する。

(1) 系統的なキャリア教育の充実を通じて、進路実現の意識の醸成を行う。

ア 総合的な学習の時間(FROM NOW)や進路別分野別説明会・大学見学・卒業生との対話集会等の充実を図る。

※学校教育自己診断の「ホームルームや『総合的な学習の時間=From Now』などで進路や生き方について考える機会がある」(H29肯定感74.1%)を3年間で80%以上にする。

イ 個々の生徒の学習状況・進路志望状況を把握し、進路実現への道筋を明確にするキャリアカウンセリングを充実する。

※学校教育自己診断の「学力学習実態調査、実力テストや模試は、学習に取り組む態度を改善するために役立っている」(H29年度肯定感57.7%)を毎年3ポイントずつ引き上げる。

(2) 二つのコース間の切磋琢磨を促進し、進路実績の向上をめざす

ア 二つのコースの充実及びコース間の切磋琢磨を促進する。特にスタンダードコースのキャリア教育を促進に、スタンダードコースの活性化を促進する。

※学校教育自己診断の「本校のコース(アドバンスト・スタンダード両コース)は、学習環境の充実や進路実現に役立っている」(H29年度肯定感69.3%)を毎年3ポイントずつ引き上げる。特に、同項目の両コース間の差を3年間で5ポイント以内(H29年度アドバンストコースの肯定感-スタンダードコースの肯定感=12.2ポイント差)にする。

イ 国公立大学及び難関私立大学の進学実績の向上を図る。

※2020年度卒国公立合格者30人、関関同立現役合格者実人数100人以上をめざす。(H29年度卒 現役実人数:国公立15名、関関同立71名)

3. 人と繋がり、社会と繋がり、世界と繋がる力の育成をめざす。

(1) 自主活動を推進発展させる

ア 行事・クラブ活動などの自主活動を促進し、コミュニケーション能力、組織力、マネジメント力を養う。

※学校教育自己診断の自主活動関連の項目を毎年3ポイントずつ引き上げる。

(2) グローバル資質の育成を推進する。

ア 海外語学研修、留学生の受け入れなどを促進し、グローバル資質の育成を行う。

※学校教育自己診断の「国際理解教育に力を入れている」(H29年度肯定感 74.8%) を 80%以上にする。

(3) 地域連携強化によるローカル資質の育成の推進

ア 保護者、中学生徒、中学校教員への学校説明会の充実をはかり、H29年度入試の志願倍率を今後も維持する。

イ 学校運営協議会の発足を受け、司馬遼太郎館との連携をはじめ、中河地地区の大学、公共施設、民間団体などとの連携を図り、コミュニティスクールをめざす。

※学校教育自己診断に「本校は、さまざまな地域の活動に参加・貢献している」(仮) を新設し、H30年度肯定感より毎年3ポイントずつ引き上げる。

ウ 小中学校、地域、地元自治体と連携した防災活動を充実させる。

※学校教育自己診断「本校で、地震や火災の際の対応は知らされている」(H29年度肯定感 68.7%) を毎年3ポイントずつ引き上げる。

(4) 自己を厳しく律する力と自尊心を育成する。

ア 挨拶指導・遅刻指導を促進する

※年間遅刻回数を 2000 以下にする (H29年度 2089 件)

イ 教育相談委員会の活性化、個別生徒支援の充実を図る。

※学校教育自己診断における「学校は悩みや相談に親身になって応じてくれる」(H29年度肯定感 64.5%) を毎年3ポイントずつ引き上げる。

4. 教職員集団「チーム布施高校」の育成

(1) 教育課題に果敢に取り組む教職員集団の育成

ア 新たな教育課題にチャレンジし、教職員間が切磋琢磨しながら、同僚性に富んだチームワークのある教職員集団の育成を図る。

※学校教育自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性をたかめ、協力して教育活動を行っている。」(H29年度肯定感 37.2%) を毎年3ポイントずつ引き上げる。

イ 教職員の授業力・キャリア教育力の向上を図る。

※学校教育自己診断の関連項目を毎年3ポイントずつ引き上げる。

ウ 校内研修の開催、校外研修への参加の促進、研究授業の実施を促進し、高大接続改革など新たな教育課題に対応できる教職員集団の育成を図る。

※学校教育自己診断「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」(H29年度肯定感 53.5%) を毎年3ポイントずつ引き上げる。

エ 運営委員会の活性化、ミドルリーダーの育成、若手の力量向上を図る。

※学校教育自己診断に「運営委員会は、十分に機能している」を設け、H30年度の肯定感から毎年3ポイントずつ引き上げる。また、同様に人材育成の項目を新設し、H30年度の肯定感から毎年3ポイントずつ引き上げる。

オ 仕事の平準化、合理化を推進し、「働き方改革」を行う。

※仕事の平準化、合理化に関する現状分析を行い中期目標を設定すると共に、担任と担任外の仕事格差、教材の共有化を促進し、仕事の負担軽減を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年度 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>今年度の学校教育自己診断結果は、前年度との比較でプラスに転じたのは、10/32の項目、22の項目がマイナスに転じている。学年別に見ると、1年生でプラスに転じたのが18/32項目、2年生は、±0も含めて12/32であるのに比して、3年生では4/32項目しかない。各学年の増減の平均を計算すると、全体(-1.5) 1年生(+1.9)、2年生が(-0.9)となっているのに比して、3年生が(-5.5)と大幅に下がっている。以上のことから見ると、今年度の学校教育自己診断の結果をマイナスの方向で「牽引」してしまったのは、3年生72期生で主要な要因があるように思われる。</p> <p>なぜ、72期生がこのような結果を導いたかは、以下の点に要因がある。</p> <p>①受験制度の変更</p> <p>71期生と72期生とでは、受験制度が大きく変わった。69期生～71期生までは、前期入試と後期入試の2回入試が実施されていたが、72期生以降は一般入試1回の受験制度に変更された。前期入試が実施されているところは、比較的学力水準の高い生徒が入学する傾向にあった。この生徒達が、2年次からアドバンスコースを選択し、学習面でのリーダーシップを発揮することが多々あった。</p> <p>②布施高校への進学モチベーションの問題</p> <p>本校は、69期生からアド・スタの二つのコース設定を行い、飛躍的な進学実績を挙げた。この進学実績を見て布施高校に進学してきたのは、73期生であり、72期生は68期生の進学実績を見て布施高校への進学を決めている。73期生と72期生の違いは、進学動機にある。72期生以前では、「学校の雰囲気」を重視して進学してくる生徒が多かったが、73期生以降は、本校の「進学実績」に魅力を感じて進学を希望する生徒が大きく増えた。ここにも72期生と73期生との間に違いが発生している。</p> <p>以上の要因から、改革以前の布施高校をイメージして入学してきた72期生にとって、布施高校に入学してみると、すでに布施高校は学習重視の進学校に大きく変わっていたというミスマッチが存在したのではないかと考える。それが、今回の学校教育自己診断結果下落の主要な要因と考えられる。</p>	<p><第1回></p> <p>委員からいただいた意見として、以下の点がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校時代の学習が大学の勉強に影響を与えている。キャリア教育、タイムマネジメント、自分のコントロールをどう指示していくかがキーとなる。 ・新しい学力観に繋げるためには、高校の学習が何に繋がっていくかを示す必要がある。 ・全国水準と比べてアクティブ・ラーニングの実施率が低い。 ・進路指導について教員が本当に理解して指導しているのか。3年間を見越しての位置づけを考えて次に繋がる線になっているのかを考えるべき。 <p><第2回></p> <ul style="list-style-type: none"> ・(働き方改革に関して) 分掌の仕事や成績処理はシートなので、資料を共有することにより先生の仕事が軽減できる。データを残しておく共有ホルダーなどをつくっておくと良い。生徒指導の影響と負担感が低いのは評価できる。ネット教材の利用やシステムの教材を共有すると負担が減る。 ・(働き方改革に関して) 学ぶ機会を支える組織が必要。異動してきたとき、授業計画をたてる際、去年のテストを参考にして考えた方が、授業デザインがしやすい。他府県ではそうしている。 ・(大学入学共通テストに関して) センター試験の新テストへの移行が見られる。新テスト方式の質問にどれくらい対応できるかも考えておくこと。センター試験だよりのみにならないように。生徒を問題に柔軟に取り組めるよう十分指導しておくこと。特に、上位者。今年も新テストに依っていく可能性がある。プレテストを受けて、面白かったという生徒と難しかったという生徒に分かれる。大学側は面白かったという生徒を求めている。 <p><第3回></p> <p>第3回目は、校長より平成30年度の学校経営計画についての評価と、12月に実施した学校教育自己診断結果を中心に報告を行い、その結果を踏まえ、平成31年度の学校経営計画の提起があった。今回は、今までと違い、新旧運営委員会の委員の出席により、協議を行った。議題は、模試結果の分析・部活動・キャリア教育など多岐に亘り、運営委員と協議員の意見交換を行った。ただ、このような形での協議は、初めてであったので、議題は多岐に亘ったが、互いの意見表明という傾向が強く、議論の深まりを欠いた傾向があったのは、認めざるを得ない。今後は、この運営委員会の参加を必須とし、更に参加教職員を増やす中で、議論のテーマを深めていきたい。平成31年度学校経営計画の承認を得て終了した。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 思考力・判断力・表現力を養い主体的に学ぶ力を育成する。	<p>(1) 質の高い授業の提供</p> <p>ア 授業アンケートの活用及び研究授業などの活性化</p> <p>(2) AL型授業の促進</p> <p>ア AL型授業を取り入れ、授業改革に取り組む</p> <p>(3) 探究心をもって主体的に学ぶ力の育成</p> <p>ア キャリア形成と関連付けた主体的な学びの促進</p> <p>イ 「朝の小テスト」の改善実施</p> <p>ウ 自学自習の力を養う</p>	<p>ア ・年2回の授業アンケートに自由記述を行い、生徒の声に真摯に向き合う。</p> <p>・授業見学、公開授業、研究授業を、教科を中心に組織的に取り組む。</p> <p>ア 校内外の研修に参加・実施し、AL型授業の研究授業を実施する。特に関西大学・森教授と連携し年2回の研修を行う。</p> <p>ア QEを実践すると共に、学校内外の授業以外の学びの場に積極的に参加し、学ぶことの興味関心をそだて、自己のキャリア形成と関連付けた主体的な学びを促進する。</p> <p>イ 朝の小テストに改善し、読解力の育成の一助とする。</p> <p>ウ ①講習・補習の充実 ②ラーニングcommonsの積極的活用 ③教育産業と連携したVOD型学習の推進④進学講習の充実</p>	<p>ア 学校教育自己診断「学力のつく授業が多い」(肯定感 66.3%(h29))「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」(肯定感 50.9%(h29))を3ポイント上昇</p> <p>ア 学校教育自己診断「思考力・判断力・表現力を養う工夫をしている先生が多い」(肯定感 59.1%(h29))を3ポイント上昇</p> <p>ア 学校教育自己診断「授業以外にも興味関心を持たせる学びの場がある」(肯定感 49.9%(h29))を3ポイント上昇</p> <p>イ 学校教育自己診断「朝の小テストは学力の向上や興味関心の向上に役立っている」(肯定感 57.5(h29))を3ポイント上昇</p> <p>ウ 学校教育自己診断「補習や補講が生徒のニーズに沿って行われている」(肯定感 69.2%(h29))「自習室・LCの開放は、学習時間の確保に役立っている」(肯定感 55.6%(h29))を3ポイント上昇</p>	<p>ア 学校教育自己診断「学力のつく授業が多い」(肯定感 66.3%(H29)⇒63.9%)「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」(肯定感 50.9%(H29)⇒43.7%)で何れも下がった(△)</p> <p>ア 学校教育自己診断「思考力・判断力・表現力を養う工夫をしている先生が多い」(肯定感 59.1%(H29)⇒58.4%)と下がった(△)</p> <p>ア 学校教育自己診断「授業以外にも興味関心を持たせる学びの場がある」(肯定感 49.9%(h29)⇒49.2%)と下がった(△)</p> <p>イ 学校教育自己診断「朝の小テストは学力の向上や興味関心の向上に役立っている」(肯定感 57.5(H29)⇒58.7%)で1.2ポイント上昇(△)</p> <p>ウ 学校教育自己診断「補習や補講が生徒のニーズに沿って行われている」(肯定感 69.2%(H29)⇒69.4%)「自習室・LCの開放は、学習時間の確保に役立っている」(肯定感 55.6%(H29)⇒48.1%)で3ポイント上昇ならず、下がった(△)</p>
2. 高い志を持ち進路実現をするためのキャリア教育を充実する。	<p>(1) 進路実現の意識の醸成</p> <p>ア FN等の充実</p> <p>イ キャリアカウンセリングの充実</p> <p>(2) 進学実績の向上。</p> <p>ア 二つのコース間の切磋琢磨の促進</p> <p>イ 進学実績の向上</p>	<p>ア ・FNや進路別分野別説明会・大学見学・卒業生との対話集会等の充実を図る。</p> <p>・QEの充実及び定着を行い、キャリア形成の充実を図る。</p> <p>イ キャリアカウンセリングを充実し、個々の生徒の学習状況・進路志望状況を把握し、進路実現への道筋を明確にする</p> <p>ア 二つのコースのキャリア教育、特にスタンダードコースのキャリア教育に重点を置く。</p> <p>イ 国公立大学及び難関私立大学の進学実績の向上を図る。</p>	<p>ア ・学校教育自己診断「ホームルームや『FN』などで進路や生き方について考える機会がある」(74.1%(h29))を3ポイント上昇</p> <p>・QEに関するH29年度肯定感(77.8%)の現状を維持する</p> <p>イ 学校教育自己診断の「学力学習実態調査、実力テストや模試は、学習に取り組む態度を改善するために役立っている」(肯定感 57.7%(h29))を3ポイント上昇</p> <p>ア 学校教育自己診断の「本校のコース(アドバンスト・スタンダード両コース)は、学習環境の充実や進路実現に役立っている」(肯定感 69.3%(h29))を3ポイント上昇。また両コースの肯定感の差を3ポイント縮める(h29 両コースの差は、12.2ポイント)</p> <p>イ 国公立大学15名以上関関同立実合格人数70名以上</p>	<p>ア ・学校教育自己診断「ホームルームや『FN』などで進路や生き方について考える機会がある」(74.1%(H29)⇒76.3%)で3ポイント上昇ならず。</p> <p>・QEに関するH29年度肯定感(77.8%(H29)⇒84.2%)◎</p> <p>イ 学校教育自己診断の「学力学習実態調査、実力テストや模試は、学習に取り組む態度を改善するために役立っている」(肯定感 57.7%(H29)⇒55.7%)と下がった(△)</p> <p>ア 学校教育自己診断の「本校のコース(アドバンスト・スタンダード両コース)は、学習環境の充実や進路実現に役立っている」(肯定感 69.3%(H29)⇒71.3%)で3ポイント上昇ならず。また両コースの肯定感の差を3ポイント縮める(H29 両コースの差は、12.2ポイント⇒73期 12.4、72期 12.2)で差は縮まらず(△)</p> <p>イ 国公立大学(15)名以上、関関同立実合格人数(53)名(△)</p>

府立布施高等学校

<p>3. 人と繋がり、社会と繋がり、世界と繋がる力の育成をめざす。</p>	<p>(1) 自主活動を推進発展させる ア 行事・クラブ活動などの自主活動を促進</p> <p>(2) グローバル資質の育成を推進する。 ア グローバル資質の育成</p> <p>(3) ローカル資質の育成の推進 ア 学校説明会の充実 イ 地域連携強化 ウ 防災教育の推進</p> <p>(4) 自己を厳しく律する力と自尊心の育成 ア 挨拶指導・遅刻指導 イ 教育相談委員会の活性化</p>	<p>ア 既存のシステムをより活性化させて、自主活動を促進し、コミュニケーション能力、組織力、マネジメント力を養う。</p> <p>ア 海外語学研修、留学生の受け入れなどを促進し、グローバル資質の育成を行う。</p> <p>ア 保護者、中学生徒、中学校教員への学校説明会の充実・拡大をはかる。 イ 学校運営協議会の発足を受け、司馬遼太郎館との連携をはじめ、中河地地区の大学、公共施設、民間団体などとの連携を図り、コミュニティスクールをめざす。 ウ 小中学校、地域、地元自治体と連携した防災活動を充実させる。</p> <p>ア 挨拶指導・遅刻指導を促進する イ 教育相談委員会の活性化、個別生徒支援の充実、教育相談研修の充実を図る。</p>	<p>ア 学校教育自己診断「ホームルーム活動は活発で、クラス全体で積極的に取り組んでいる。」(肯定感 72.1% (H29))、「創造祭・体育祭の学校行事に生徒が主体的に取り組めるように工夫されている。」(肯定感 80.2% (H29))「本校は、部活動や自治会活動などの自主的な力を伸ばしていく教育活動に力を入れている。」(肯定感 73.7% (H29))を3ポイント上昇。80%以上の肯定感の項目は現状を維持する。</p> <p>ア 学校教育自己診断「本校は、国際理解教育に力を入れている」(肯定感 74.8% (h29))を3ポイント上昇 ア H30 年度入試の志願倍率を維持する。 イ 学校教育自己診断「本校は、さまざまな地域の活動に参加・貢献している」を新設し、H30 年度肯定感を60%以上にす。 ウ 学校教育自己診断「本校で、地震や火災の際の対応は知らされている」(肯定感 68.7% (h29))を3ポイント上昇 ア 年間遅刻回数を2000以下にする(H29年度2089件) イ 学校教育自己診断「学校は悩みや相談に親身になって応じてくれる」(肯定感 64.5% (h29))を3ポイント上昇</p>	<p>ア 学校教育自己診断「ホームルーム活動は活発で、クラス全体で積極的に取り組んでいる。」(肯定感 72.1% (H29) ⇒71.7%)、「創造祭・体育祭の学校行事に生徒が主体的に取り組めるように工夫されている。」(肯定感 80.2% (H29) ⇒77.3%)「本校は、部活動や自治会活動などの自主的な力を伸ばしていく教育活動に力を入れている。」(肯定感 73.7% (H29) ⇒69.9%)でいずれの項目も下がった(△)</p> <p>ア 学校教育自己診断「本校は、国際理解教育に力を入れている」(肯定感 74.8% (H29) ⇒63.9%)と下がった(△) 最終倍率が(1.37)倍となり、前年を下回ったが、少子化の状況を勘案すると目標を達成したといえる。(○) イ 学校教育自己診断「本校は、さまざまな地域の活動に参加・貢献している」(肯定感 50.21%) (△) ウ 学校教育自己診断「本校で、地震や火災の際の対応は知らされている」(肯定感 68.7% (H29) ⇒77.3%)で大幅に上昇(◎) ア 年間遅刻回数2327(H29年度2089件)(△) イ 学校教育自己診断「学校は悩みや相談に親身になって応じてくれる」(肯定感 64.5% (H29) ⇒64%)と下がった(△)</p>
<p>4 教職員集団「チーム布施高校」の育成</p>	<p>(1) 教育課題に果敢に取り組む教職員集団の育成 ア チームワークのある教職員集団の育成。 イ 教職員の授業力・キャリア教育力の向上を図る。 ウ 新たな教育課題に対応できる教職員集団の育成 エ 運営委員会の活性化、ミドルリーダーの育成、若手の力量向上 オ 「働き方改革」の推進</p>	<p>ア 教職員の意識改革を行い、学校経営計画の実現に向けた組織運営を推進する。 イ 学校経営計画の1及び2を実行することにより、教職員の授業力・キャリア教育力の向上を図る。 ウ 校内研修の開催、校外研修への参加の促進、研究授業の実施を促進する。 エ 運営委員会の議論の活性化、OJTの推進、若手教員の勉強会を推進し、教職員の力量向上を図る。 オ ・仕事の平準化・合理化に向けたアンケートを実施し、中期目標を設定する。 ・教科における「教材の共有化」を促進する。 ・学年マネージャーの設置によって、担任と担任外の仕事格差を縮小する。</p>	<p>ア 学校教育自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性をたかめ、協力して教育活動を行っている。」に変更した。(肯定感 37.2% (h29))を3ポイント上昇 イ 学校教育自己診断「学力のつく授業が多い。」(肯定感 66.3% (h29))「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」(肯定感 50.9% (h29))学校教育自己診断「思考力・判断力・表現力を養う工夫をしている先生が多い」(肯定感 59.1% (h29))を3ポイント上昇 ウ 学校教育自己診断「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」(肯定感 53.5% (h29))アクティブ・ラーニング型授業の実践者を、42.9% (h29)を3ポイント上昇 エ 学校教育自己診断に「運営委員会は、十分に機能している」本校は、計画的に人材育成を行っている」を設け、全体の肯定感以上にす。 オ ・時間外労働を平成29年度から3%減する。 ・「教材の共有化」促進の教職員の肯定感を50%以上とする。 ・担任と担任外の仕事格差の縮小に関する肯定感を50%以上とする。</p>	<p>ア 学校教育自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性をたかめ、協力して教育活動を行っている。」に変更した。(肯定感 37.2% (H29) ⇒56.3%)で大幅上昇(◎) イ 学校教育自己診断「学力のつく授業が多い。」(肯定感 66.3% (H29) ⇒63.4%)「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」(肯定感 50.9% (H29) ⇒43.7%)学校教育自己診断「思考力・判断力・表現力を養う工夫をしている先生が多い」(肯定感 59.1% (H29) ⇒58.4%)で何れも下がった(△) ウ 学校教育自己診断「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」(肯定感 53.5% (H29) ⇒56.3%)アクティブ・ラーニング型授業の実践者(42.9% (H29) ⇒45.6%) (○) エ 学校教育自己診断に「運営委員会は、十分に機能している」(72.8%)「本校は、計画的に人材育成を行っている」(62.5%) (○) オ ・時間外労働(2.22増)% ・「教材の共有化」37.5% ・担任と担任外の仕事格差の縮小に関する肯定感15.1% (△)</p>